



平成28年度学生ボランティア促進キャンペーンイベント 「今だからできること～復興の先を見据えて～」に参加して 福島県立医科大学 災害医療系サークル Fukushima WILL

本イベントに参加して

これまでの私達の活動では、他団体との交流として医療系学生が主な対象でしたが、本イベントにおいては他の学部・学科の学生達と交流することができ、私達の団体とは異なった活動、新たな視点からの意見が得られ、多くの刺激をいただきました。

その新たな視点をもとに、これまでの活動をベースにしつつも、新たな可能性を見出せるよう、様々なことを企画してまいりました。

また、今回の繋がりを生かし、協力してワークショップを開催するなど、東北復興の後押しとなるような活動をとともにできれば、と考えております。

イベント参加後の主な活動

①医学教育学会での発表

毎年、日本医学教育学会大会にFukushima WILLから数名、震災後の福島に寄り添うような内容の発表をさせていただいております。

今年度は、例年よりも多い4題を発表させていただきました。

②夏の災害医療セミナー

毎年、奈良県立医科大学や和歌山県立医科大学の学生とともに、放射線の講義や震災について学んでいます。

今年は講義に加えて、奈良医大・和歌山医大とともに、南相馬市小高区にてボランティア活動を行いました。

医学教育学会 活動記録



発表の様子

夏の災害医療セミナー 活動記録



セミナーの様子



南相馬市小高区にて、避難指示解除により戻ってきた住民の方々の家の瓦礫の撤去や掃除、畑の木の整備などを行いました。

今後の展望

これまで、「伝える」「備える」を二本柱として各種活動を行ってまいりました。これからもその活動を続けていくとともに、新たな可能性を模索していければ、と考えております。

今回のイベントで得た全国の様々な団体の考えを踏まえ、福島の学生だからこそ、Fukushima WILLだからこそできる活動とはなにか、ということ自らの中に問いかけ続けながら、精力的に活動を続けてまいります。

4つの演題のうち、【東日本大震災の被災者に対する※Photovoiceの実践について】が最優秀演題賞として表彰され、Fukushima WILLとしましては、2年連続での受賞となりました。

※Photovoiceとは、大きな災害や恐怖を経験し心のケアが必要になった人々に対する心理療法の1つで、自分が撮った写真に「声」をつけ、他人とその意図や感情・経験を話し合うことで、気持ちが前向きになることを目的としたものです。

本学会では、この手法による東日本大震災の被災住民の心の変化について、マウントサイナイ大学と協力して得られたことについて報告いたしました。